

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500458		
法人名	医療法人 こうえい会		
事業所名	グループホーム明香苑		
所在地	山口県周南市代々木通2-27		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町受理日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何よりも入居者一人ひとりの尊厳を守る支援を心がけている。苑としての基本的な生活リズムはあるが苑の生活リズムに合わせるのではなく入居者の状態に応じて柔軟な対応をしている。体力的に無理な入居者をのぞく殆どの方が日中はリビングで過ごし一人ひとり得意な分野の作業や手伝いをしたり集団レクリエーションや共同作業をしている。入居者同士お互いの人格を認め合い、思いやりっており職員とも馴染みの関係にあって和やかに生活している。家族と職員との関係も良好で家族は他の入居者にも声かけしながらリビングでくつろいでいられる。食事は入居者と食材や調理方法等話しをしながら旬の食材を使った手作り職員と一緒に楽しく食している。また医療法人の併設施設として日常的に看護師との連携をとっており医療面においても入居者や家族の安心感は大きい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのペースを大切にされ、希望にそった支援をしておられます。職員は法人の接遇研修や接遇委員会を通して学ばれ、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にされ、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底しておられます。日常的に家族の来訪が多く、職員は利用者と家族の絆を大切にされて利用者を支えられています。食事は三食とも事業所で調理しておられます。調理専門の職員の確保や法人の管理栄養士が献立をチェックして助言しておられ、栄養バランスのとれた食事を提供されています。職員は利用者と一緒に食事の準備や後片付けをされています。おやつづくり、梅干しやらっきょう漬けづくり、干し柿づくりなどをしておられる他、天気の良い日は屋上で昼食を食べられるなど、食事が楽しめるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにわかりやすい言葉で事業所理念を掲示し全体で理念を共有、入居者・職員一体となってなごやかに過ごしている。	事業所独自の理念を作り、事業所内に掲示している。日々の生活の中で、全職員と利用者が一緒に理念を確認し日々のケアに取り組んでいる。毎月1回の職員ミーティングで理念について話し合い共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等に参加することで地域の人と馴染みになり入居者を含めた交流が生まれ、地域の人が孫や犬と一緒に来所したり、畑の様子を見に来たりと日常の交流ができている。	自治会に加入し、地域のお祭り(お大師、権現様)や敬老会に参加をしている。毎年、中学生の体験学習や高校生の実習の受け入れしている。地域の人が日常的に事業所を訪れている他、散歩の時に挨拶や会話をし交流している。災害時には、地域の避難場所として協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校の授業に出向したり、学生の体験学習を受け入れたりしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に評価することでグループホームの意義を再認識している。月1回の職員ミーティングを定例化し、事業内容の確認・見直しを行っている。	職員ミーティングで評価の意義について説明し、全職員に分担し記入したものを管理者、計画作成担当者がまとめ、全職員で共有している。自己評価を通して、接遇を重要課題とし、研修や言葉づかいの改善に取り組んでいる。前回の外部評価を受けて、研修内容の充実、運営推進会議の活性化、応急手当の訓練、他のグループホームとの交流の4点について目標達成計画を立て、取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し意見交換・情報交換をしている。メンバーから水墨画展の情報を得、入居者と展覧会に行く活動につながった。	2か月に1回開催し、利用者の状況報告やターミナルについて報告している。災害時の協力体制の検討や状況に応じて地域の人の避難の受け入れ態勢について話し合っている。メンバーからの情報提供で、水墨画の展覧会に行き、体験することが出来るなど、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらっている。書類は持参し情報交換を行い必要に応じて助言を得ている。介護相談員の受け入れをしている。	運営推進会議には、市の担当課と地域包括支援センターの職員が参加している。市の担当課に出向き情報交換や相談して「助言を得ている。介護相談員の受け入れや、介護相談員の養成研修を受け入れ、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや業務引継時の情報交換を密にし、入居者一人ひとりの状態を把握して個別に対応し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、法人の接遇研修やミーティングで正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの状態を把握し、家族とリスクについて話し合っている。玄関は施錠せず、言葉づかいに関して気づきがあれば管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が接遇研修を受け個人を尊重した言動について学んでおり、学んだことを反芻しながら業務にあたっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員が中心となりミーティング時の議題に上げ日頃から学ぶ機会を持ち、必要時には対応できるよう支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には十分な説明を行い、施設見学もしてもらったりして利用者、家族の疑問や不安解消につとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対してはこまめな声かけで思いをくみとり個人を尊重した支援をしている。家族とは信頼関係を築き、話しやすい雰囲気の中で要望を聞き支援の方法を話し合っている。	利用者からは、日々の暮らしの中でや介護相談員が意見や要望を聞いている。面会時や電話で家族から意見や要望を聞き、対応方法について検討している。相談苦情の受付体制や処理手続きを定めて家族に周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月初めにスタッフミーティングを行い、連絡・情報交換をして職場全体のことや個人ケアの問題点を検討している。	毎月のミーティングや年2回の代表者との個人面接時、法人の委員会(院内感染、安全、接遇、介護部門など)で職員からの意見や提案を聞いている。職員からの意見で、記録用紙の書式を検討し改善している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回代表者との面接で職員は思いを伝えることができる。また代表者と管理者の連携がスムーズに行われており職員の意見が反映されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員に対しては主に管理者が助言しており、ミーティングで皆でケア方針を話し合っている。外部の研修参加は職場として協力体制をとっており院内研修は計画的に行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の経験や段階に応じて受講の機会を提供している。法人研修は、月1回(接遇、安全管理、感染症、骨粗鬆症、院長講義等)あり、職員は自主的に参加している。内部研修は、毎月1回(介護職のヒント、認知症、転倒予防、復命報告等)の内容で実施している。山口県在宅所・グループホーム協会に加入し研修に参加をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入っており研修会に参加している。他研修会を含め参加時には研修内容を職場に持ち帰っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当法人の通所利用者や高齢者専用住宅入居者の場合は顔馴染みになっており本人の安心に繋がっている。それ以外の場合は訪問したり当苑を見学してもらったりして信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に至る迄の経緯、入居に際しての不安・要望等を聞き話し合いの時間を大切にしている。家族の希望があれば施設見学にも応じている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中で実情や要望を見極め、必要に応じて他施設の情報を伝えたり、主治医と連携をとったりしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人個人の状態に応じ洗濯物を干したりたたんだり、テーブル拭き、食事の一部分の手伝い等をしてもらう。畑では利用者に知恵を出してもらいながら共同作業をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問を歓迎し、利用者・家族・職員と一緒に談笑したり、利用者と家族だけの時間を大切にしたりしている。また家族に個人記録を見てもらい利用者を共に支えていく姿勢をとっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の知人の訪問を歓迎している。家族訪問、時には親族・地域の人達の昔話や近況報告で話しがはずむ。	親戚の人や知人、友人やカラオケの仲間の来訪がある他、地元の敬老会への参加の支援をしている。家族の協力を得て、法事への出席や墓参り、外泊、馴染みの美容院の利用など、関係の継続に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者お互いが認め合い助け合いながら生活しているが、リビングでは時々暴言の出る入居者もあり、陰湿な雰囲気の際は職員が場をとりもっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の転居先に利用者が不安を誘発させないために必要な情報を伝えている。退所後も家族の来所や電話に快く対応しており関係性が継続している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者・家族へのアセスメントをしっかりと行い、その後は日常のふれあいの中で利用者・家族の思いをくみとれるよう心がけている。	入居時に本人と家族の思いや意向を聞きアセスメントシートに記録している。日常生活の中で聞き取った思いは、介護記録に記録し意向の把握に努めている。困難な場合は、家族と相談し本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員で利用者の生活歴を共有し、日々の利用者・家族との会話の中で知り得た情報を積み重ね利用者への理解を深めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回のミーティングで利用者一人ひとりの状態を確認している。業務日誌の申し送りで日々の状態を把握し業務中に感じた変化はその都度話し合っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員を中心にミーティングで意見を出しあいながら介護計画を作成している。利用者・家族とは日常的なふれあいの中で要望をくみとっており、必要に応じて家族と話し合いを行っている。	利用者の担当職員と計画作成担当者を中心に、利用者や家族、かかりつけ医、看護師、栄養士、リハビリ担当者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを実施し、見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員各自が業務中に気づいたこと、利用者の状態等を個別記録に記帳し、職員間で情報を共有してケアにあたり、介護計画作成時には参考になっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に応じ家族と連携をとりながら問題解決をはかっている。また同法人内の医師・看護師の助言・協力で介護にあたり、体調急変時は主治医や医療機関と連携して対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地域包括支援センター、民生委員には連絡会議に出席してもらっている。地域住民とは職員が率先して挨拶をすることで入居者に親しみをもってもらい、出入りもある。また近くの大学寮の学生とは火災時の協力体制が出来ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関にこだわらず、本人や家族の希望を大切にしている。家族の通院介助時や苑の受診支援時とも情報の共有を大切にしている。	本人と家族が希望するかかりつけ医や協力医療機関をかかりつけ医とし、法人の看護師と連携し、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時は情報を提供し共有に努めている。緊急時の対応を含め適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経営母体医院の看護師とは日常的に交流があり利用者の状態を把握してもらっている。必要時には協力を得て適切な支援を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、利用者の不安を最小限にできるよう必要な情報提供をしている。利用者の意向も聞きながら医療機関、家族との連携をはかっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した時の家族の希望を聞き、入所後は家族との信頼関係を築くよう対応している。利用者の変化に応じてその都度家族と話し合いながら対応している。	重度化した場合の指針があり、契約時に家族に説明をしている。重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、関係者で話し合い方針を決め共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	安全管理委員会でアクシデント・インシデントの検討をし事故防止にとりくんでいる。看護師と連携をとり急変時や事故発生時に備えて必要機器の知識や応急手当の方法を学んでいるが定期的な訓練には至っていない。	アクシデント・インシデント報告書に記録し、対応策の検討している。法人の安全委員会で報告し、他部署からの意見も聞き事故防止に取り組んでいる。毎年、AEDの研修を実施している。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり定期的に防災訓練を実施している。近隣の大学寮生と協力体制をとっており運営推進会議で地域の協力体制を確認している。	マニュアルがあり、法人全体で年2回、消防署の協力を得て、昼夜想定、煙体験の防災訓練を実施している。地域の大学生が参加し協力関係を築いている。事業所で通報訓練、避難方法の確認を行い、運営推進会議で話し合い協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や性格、現在の状態を把握しプライバシーを損なわないよう言動に注意し、個人を尊重した支援を行っている。	法人の接遇研修や接遇委員会を通じて学び、ミーティングで職員同士で確認している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、管理者が指導しながら、プライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語表現だけでなく表情やしぐさで大体の思いを読みとることが出来るが職員の思い込みにならないようコミュニケーションをとりながら利用者の意思表示を確認している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の生活リズムをベースにしているが、個人の状態により起床・就寝・食事・入浴・排泄等個人のペースを尊重した支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを優先し出来ないところを支援している。一人ひとりの状態を心得ている馴染みの美容師に定期的にカットしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態に応じて買い物、調理、テーブル拭き、配膳等を職員と一緒にやり和やかに食事をしている。	昼食、夕食は調理担当職員を確保し、三食とも事業所で食事づくりをしている。献立を立てて、利用者と職員は一緒に買い物や下ごしらえ、味見、盛り付け、台拭き、食器洗いなどできることをしている。職員も一緒に同じものを食べている。梅干し、ラッキョウ、干し柿づくり、おやつづくり(かき氷、スムージー、寒天、おはぎ)をしたり、畑で採れた野菜を使った料理や天気の良い日には屋上で食事をしているなど、食事が楽しめるように支援している。法人の栄養士が献立をチェックして助言をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	気がかりな利用者に関しては特に食事量、水分摂取量に気をつけ連携をとっている。食欲がない時はむすびにしたり好みのものにして工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にしており一人ひとりの状態に応じて介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。動作や表情から排泄兆候を察知し、さりげなく流れに沿って自然な誘導を行う。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや誘導をして、トイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し便秘がちな時は特に水分摂取に気をつけている。動ける利用者は活動量を増やし、活動の難しい利用者は入浴時腹部マッサージ等している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の心身状態を確認し利用者の意向を聞きながら入浴順序等を決めている。利用者の自主性とペースを尊重した支援を行い楽しいふれあいの機会の一つになっている。	毎日、13時30分から16時までを入浴時間としているが、希望の時間に合わせて入浴も可能である。状態に合わせて、清拭や足浴の対応をしている。柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を使い、入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない利用者には、タイミングを見計ったり、複数で入浴するなど声かけの工夫をして支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムにあわせ自由にリビングと自室を行き来している。在室中は様子見しながら声かけをしている。夜、安眠出来ない利用者には寄り添い安心感を持ってもらうよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は職員全員が把握しており、投薬時は二人で確認する。服薬中は医師と連携をはかり状態の変化に対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状態に応じて家事手伝いをし、生きがいを感じられるよう支援している。買物、レクリエーション等も時には個別対応することで充実感を得てもらっている。	貼り絵、塗り絵、ちぎり絵、折り紙、ゲーム(ボール遊び、パットゴルフ、ワンニャンゲーム)脳トレ(計算、漢字、しりとり)体操(テレビ、嚙下)カラオケ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップがけ、テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、畑づくり、金魚のえさやりなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の生活の一環として洗濯物干しや取り込み、畑の世話等で屋上に行き来している。通院、買い物、地域の縁日、竹の子掘り等で外出支援を行っており、墓参り、外食等は家族の協力を得ている。	公園への散歩や買い物に行ったり、地域の祭りに出かけている。桜の花見やたけのこ掘り、屋上でのランチ、ドライブでは、道の駅や須々万、高瀬峡などに出かけ、気分転換や外出を楽しめるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族、苑とで相談のうえ少額のお小遣いを所持してもらっている。本人の所持金や苑預り金は家族に相談のうえ出費し、その都度記帳している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙のやりとりは自由にしている。ただしそのことによって混乱を生じる心配がある時は家族と相談のうえやりとりを控えてもらう。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が一日の大半を過ごすリビングには四季折々の花を生け、話題にする。換気、室温に気をつけ人間関係を考慮してイスの配置に気を配っている。調理中の音やにおい、炊飯器の蒸気等五感で生活感を実感できる。	共用空間は、季節に合わせた生け花や利用者の作品を飾り、台所からの調理の音や匂いがしてきて、家庭的で温かな居心地の良い雰囲気がある。温度、湿度、明るさに配慮し、浴室やトイレも清潔を保っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自由な雰囲気の中で一人手作業をしたり職員と談話したり思い思いの時間を過ごしている。廊下にはイスを置き、利用者・来苑者・職員等が気軽に利用している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の入所以前の生活を大切にし、家族や利用者の意向に沿いながら事故防止に配慮し、安心安全な居室づくりを心がけている。	ダンスやテーブル、テレビ、衣装ケース、ラジオカセット、造花、ぬいぐるみ、時計、カレンダー、家族の写真や手紙など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、利用者が安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状態にあわせ安全に移動・移乗が出来るようベット、ポータブル、家具等の配置をしている。リビングにおいても安心安全かつ活動しやすい人間関係も考慮しながらイスの配置をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム明香苑

作成日：平成 26年 12月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	職員を育てる仕組みで、働きながらトレーニング	サービスの質の向上	研修会参加の声かけを継続する。購入図書を活用する。定期的に勉強会を開く。	12ヶ月
2	25	応急手当の訓練が出来ていない	実践力を身につける	看護師を中心に場面ごとの対応方法を訓練する。	12ヶ月
3	15	同業者との交流が一部スタッフのみである	他グループホームとの交流を持つ	他グループホームの見学の打診と受け入れを行う。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。